



Sun Java Enterprise System 7 リ リースノート



Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 821-1399-10
2009年12月

Sun Microsystems, Inc. (以下米国Sun Microsystems社とします)は、本書に記述されている製品に含まれる技術に関連する知的財産権を所有します。特に、この知的財産権はひとつかそれ以上の米国における特許、あるいは米国およびその他の国において申請中の特許を含んでいることがあります。それらに限定されるものではありません。

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

この配布には、第三者によって開発された素材を含んでいることがあります。

本製品のは、カリフォルニア大学からライセンスされているBerkeley BSDシステムに基づいていることがあります。は、X/Open Company, Ltd.が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sunのロゴマーク、Solarisのロゴマーク、Java CoffeeCupのロゴマーク、docs.sun.com、Javaおよびは、米国およびその他の国における米国Sun Microsystems社の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。すべてのSPARCは、米国SPARC International, Inc.のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC商標が付いたは、米国Sun Microsystems社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOKおよびSun™ Graphical Userは、米国Sun Microsystems社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国Sun Microsystems社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国Xerox社の先駆者としての成果を認めるものです。米国Sun Microsystems社は米国Xerox社からXerox Graphical User Interfaceの非独占的ライセンスを取得しており、このは、OPENLOOKのグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国Sun Microsystems社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国Sun Microsystems社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書で言及されている製品や含まれているは、米国輸出規制法で規制されるものであり、その他の国の輸出入に関する法律の対象となることがあります。核、ミサイル、化学あるいは生物兵器、原子力の海洋輸送手段へのは、直接および間接を問わず厳しく禁止されています。米国が禁輸の対象としているや、限定はされませんが、取引禁止顧客や特別指定国民のリストを含む米国輸出排除リストで指定されているものへの輸出および再輸出は厳しく禁止されています。

本書は、「現状」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

目次

はじめに	7
1 Java ES 7 の概要	11
Java ES 7 Base に搭載されている製品	11
プラットフォームのサポートとシステム要件	12
サポートされるオペレーティングシステム	13
Solaris の要件および問題	13
Linux の要件および問題	14
Windows の要件および問題	14
システムの仮想化のサポート	15
Web ブラウザのサポート	15
Java Platform Standard Edition (Java SE) のサポート	15
Java ES 7 の新機能	16
新製品	16
製品バージョンの更新	16
新しいインストール方法	17
アクセシビリティ機能	17
Java ES 7 の入手方法とインストール方法	18
2 Java ES 7 の製品の相互運用性	19
相互運用性に関する注釈	19
製品の略語	20
相互運用性の対応表	21
テクノロジーに関する注釈	21
製品バージョンの下位互換	22
Solaris Cluster 3.2 1/09 と Solaris Cluster Geographic Edition 3.2 1/09	22
Sun GlassFish Enterprise Server 2.1.1	23

Sun GlassFish Web Space Server 10.0 Update 6	23
Sun Java System Directory Server Enterprise Edition 6.3.1	24
Sun Java System Message Queue 4.3	24
Sun Java System Web Proxy Server 4.0.11	25
Sun Java System Web Server 7.0 Update 6	26
Sun OpenSSO Enterprise 8.0 Update 1 Patch 2	26
3 既知の問題点と制限事項	29
(4756/4809) Portal Server 7.1u2 の同一ノード上の共存問題	30
(5509) OpenSSO 8.0UIPI: LifecycleException: java.lang.StackOverflowError で、再 配備できない	31
(5571) OpenSSO 8.0 Upgrade: ssoupgrade のあと、Web Server にエラーがスローされ る	32
(5634) GF 2.1 クラスタに Opensso を配備すると、ssoadm get-svrcfg.xml が動作しな い	32
(5696) Java ES 7: パッチ 141655-02 によるパッチ OpenSSO 8.0 が失敗する	32
(20404) Directory Server と Identity Manager: Identity Server でユーザーアカウント ID を 変更した場合、LDAP グループメンバーシップが維持されない	33
(6358422/2183559) Appserver 7.1/8.1 EE: Web サーバー LB のプロキシプラグイン は、キープアライブ接続を正しくサポートすべきである	33
(6762401) Web Space Server Portal が Policy Agent (2.2, 3.0) を使用したリバースプロキ シ機能で正しく描画されない	33
(6808492) GF 2.1 CLI の配備を取り消そうとすると失敗し、それ以降のすべての CLI コ マンドが失敗する	34
(6818829) JES6: GF2.1: GF 管理ページからログアウトできない	34
(6819380) GlassFish Enterprise Server と Identity Manager: GlassFish Enterprise Server への アップグレード中に、Identity Manager の idm.war ファイルを再配備できない	35
(6834364) SUN LoadBalancer lbplugin がインストールされている場合、シャットダウ ン時に Web Server 7 がコアダンプを生成してしまう	35
(6851521) GF2.1.1: GF アップグレードスクリプトが、PS または IM、あるいはその両 方を配備できない	36
(6881146) GlassFish インストーラ (LB プラグインインストール) が、有効な Web Server インスタンスディレクトリを認識しない	36
(6882150) Web Space Server 10.0u6: 10.0 から更新したあ と、com.liferay.util.EncryptorException がスローされる	37
(6882644) Java ES 7: GF と WSS が別々のファイルベースの配布からインストールされ ていると、WSS war ファイルを配備できない	37
(6883003) 2 台構成の GlassFish Cluster に配備した場合、Web アプリケーションが	

.wsdl ファイルを見つけられない	38
(6887791) JCAPS6u2: NetBeans に組み込まれた JSR-168 Portlet が、別のホストに転送できない (WSDL の URL 問題)	38
(6889609/6889627) Web Server インスタンスが Web Server のインストール先ディレクトリにない場合、Web Server 7.0 NetBeans プラグインが、サーバーを追加しない	39
(6889664) Web Server 7.0 NetBeans プラグインが、JSF Web アプリケーションをサポートしない	39
(6891038) LoadBalancer プラグインインストーラが、インストール中に仮想ホストの obj.conf ファイルを更新しない	40
(6891737) Web Space サブレットのコンテキスト「/」によって、同じ AS/GF 上へのほかのアプリケーションの配備がすべて防止される	41
(6893680) OpenSSO で構成された Web Space: Web Space のパスワード変更が反映されない	41
(6903954) Java ES 7 GF 2.1.1 に配備したスタンドアロンの Web Space Server 10u6 にログインすると、空白ページが表示される	42

はじめに

この『リリースノート』のドキュメントには、Sun Java™ Enterprise System 7 (Java ES 7) ソフトウェアに関する重要な情報が記載されています。インストール、アップグレードおよび操作全般についての理解を深めるために、Java ES 7 ソフトウェアの使用を開始する前にこのドキュメントをお読みください。

このドキュメントは新しい問題が発生したときに、それらを説明するために必要に応じて更新されます。このドキュメントの最新バージョンは、[Sun Java™ Enterprise System 7 ドキュメントコレクション](#)にあります。

そのほかの Java ES 7 製品の提供物 (各種の Java ES スイートなど) については、[Sun Java™ Enterprise System 7 製品ページ](#)を参照してください。

対象読者

この『リリースノート』は、Java テクノロジーの開発者および管理者を対象読者としています。このノートは、一般的な Java テクノロジーのエンドユーザーを対象とするものではありません。Java テクノロジー、プログラミング、および管理の概念と手法についてよくご存知の方を対象に想定して説明しています。

このドキュメントをお読みにする前に

Java ES 7 コンポーネントのインストール、アップグレード、または設定を開始する前に、この『リリースノート』を一読しておくことをお勧めします。このノートをお読みになったあと、『[Sun Java Enterprise System 7 Installation and Upgrade Guide](#)』にお進みください。

関連ドキュメント

Java ES 7 の追加情報については、[Sun Java™ Enterprise System 7 ドキュメントコレクション](#)を参照してください。

Java ES 7 プラットフォーム内の各コンポーネントの完全な情報は、[Sun Microsystems ドキュメント](#)のページから入手できるドキュメントを参照してください。

関連するサードパーティー Web サイト

このドキュメント内で参照している第三者の URL は、追加の関連情報を提供しません。

注 - このドキュメント内で引用する第三者の Web サイトの可用性について Sun は責任を負いません。こうしたサイトやリソース上の、またはこれらを通じて利用可能な、コンテンツ、広告、製品、その他の素材について、Sun は推奨しているわけではなく、Sun はいかなる責任も負いません。こうしたサイトやリソース上の、またはこれらを経由して利用可能な、コンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことによって発生した、あるいは発生したと主張されるいかなる損害や損失についても、Sun は一切の責任を負いません。

ドキュメント、サポート、およびトレーニング

Sun の Web サイトには、次に示す関連情報が示されています。

- **ドキュメント** (<http://www.sun.com/documentation/>)
- **サポート** (<http://www.sun.com/support/>)
- **トレーニング** (<http://www.sun.com/training/>)

このドキュメントに関するコメント

弊社では、ドキュメントの改善に努め、お客様からのコメントおよびごをお受けしております。ご意見をお寄せいただくには、<http://docs.sun.com> にアクセスして、「Feedback」をクリックしてください。

表記上の規則

次の表は、本書で使用する表記上の規則について説明しています。

表 P-1 表記上の規則

書体	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用して、すべてのファイルを表示します。 machine_name% you have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	machine_name% su Password:
<i>aabbcc123</i>	変数を示します。実際の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。

表 P-1 表記上の規則 (続き)

書体	意味	例
<i>AaBbCc123</i>	書名、新しい用語、強調する語句を示します。	『ユーザーズガイド』の第6章を参照してください。 <i>cache</i> は、ローカルに保存されたコピーです。 ファイルを保存しないでください。 注意: 一部の強調語句は、オンラインでは太字で示されます。

コマンド例のシェルプロンプト

次の表は、C シェル、Bourne シェル、および Korn シェルの、デフォルトの UNIX® システムプロンプトとスーパーユーザーのプロンプトを示しています。

表 P-2 シェルプロンプト

シェル	プロンプト
C シェル	<code>machine_name%</code>
C シェル (スーパーユーザーの場合)	<code>machine_name#</code>
Bourne シェルおよび Korn シェル	<code>\$</code>
Bourne シェルおよび Korn シェル (スーパーユーザーの場合)	<code>#</code>

Java ES 7 の概要

Sun Java™ Enterprise System 7 (Java ES 7) は、ソフトウェアからサポート、プロフェッショナルサービス、教育サービスまでを組み合わせ、契約制のサービスを総合セットにし、1つのパッケージを単一価格で提供するものです。Java ES 7 のソフトウェアコンポーネントは、相互接続性と信頼性を高めるために厳密に試験されています。

Java ES 7 は、中核的コンポーネントまたは *Base* コンポーネント一式から構成されているものがあるほか、[Sun GlassFish Portfolio 2009.12](#) など1つ以上の追加製品スイートを選べるオプションもあります。

各 Java 技術コンポーネントの詳細は、それぞれの製品ドキュメントを参照してください。GlassFish Portfolio スイートについては、[Sun GlassFish Portfolio 2009.12 ドキュメントコレクション](#)を参照してください。

この章の残りの部分では、次の項目について説明します。

- 11 ページの「Java ES 7 Base に搭載されている製品」
- 12 ページの「プラットフォームのサポートとシステム要件」
- 16 ページの「Java ES 7 の新機能」
- 18 ページの「Java ES 7 の入手方法とインストール方法」

Java ES 7 Base に搭載されている製品

表 1-1 は、Java ES 7 に搭載されている製品の一覧、各製品のバージョン、および各製品のプロジェクトページへのリンクをまとめたものです。ここから、製品のダウンロード版とドキュメントのリンクを見つけることができます。このほかの Java ES 7 提供物に搭載されている製品については、[Sun Java™ Enterprise System 7 製品ページ](#)を参照してください。

表 1-1 Java ES 7 Base に搭載されている製品

製品	バージョン
NetBeans	6.7.1
Solaris Cluster	3.2 1/09
Solaris Cluster Geographic Edition	3.2 1/09
Sun GlassFish Enterprise Server	2.1.1
Sun GlassFish Web Space Server	10.0 Update 6
Sun Java System Directory Server Enterprise Edition	6.3.1
Sun Java System Message Queue	4.3
Sun Java System Web Proxy Server	4.0.11
Sun Java System Web Server	7.0 Update 6
Sun OpenSSO Enterprise	8.0 Update 1 Patch 2

従来の Java ES リリースの製品をよく理解されている場合は、次の点に注意してください。

- Solaris Cluster および Solaris Cluster Geographic Edition はそれぞれ、従来の Java ES リリースの Sun Cluster および Sun Cluster Geographic Edition と同じ製品です。
- Sun GlassFish Enterprise Server は事実上、Sun Java System Application Server Enterprise Edition と同じ製品です。Sun は Application Server 用のソースコードを GlassFish オープンソースプロジェクトに寄与しました。このプロジェクトからのコードが、Sun GlassFish Enterprise Server の作成時に使用されます。
- Sun GlassFish Web Space Server は、Sun Java System Portal Server の新しい後継製品です。
- Sun OpenSSO Enterprise は事実上、Sun Java System Access Manager と同じ製品です。Sun は Access Manager 用のソースコードを OpenSSO オープンソースプロジェクトに寄与しました。このプロジェクトからのコードが、Sun OpenSSO Enterprise の作成時に使用されます。

プラットフォームのサポートとシステム要件

- 13 ページの「サポートされるオペレーティングシステム」
- 13 ページの「Solaris の要件および問題」
- 14 ページの「Linux の要件および問題」
- 14 ページの「Windows の要件および問題」
- 15 ページの「システムの仮想化のサポート」
- 15 ページの「Web ブラウザのサポート」
- 15 ページの「Java Platform Standard Edition (Java SE) のサポート」

サポートされるオペレーティングシステム

Java ES 7 製品は、少なくとも次のプラットフォームをサポートしています。

- Solaris 10 (SPARC™、x86、および x64 プラットフォーム版)
- Solaris 9 (SPARC および x86 プラットフォーム版)
- Red Hat Enterprise Linux 5 AS および ES (x86 および x64 プラットフォーム版)
- Red Hat Enterprise Linux 4 AS および ES (x86 および x64 プラットフォーム版)
- Microsoft Windows 2003 Server Standard と Enterprise Editions 32 および 64 ビットバージョン SP2 (x86 および x64 プラットフォーム版)
- Microsoft Windows 2003 Data Center Server 32 ビットバージョン SP2 (x86 および x64 プラットフォーム版)
- Microsoft Windows XP Professional Edition SP2 (x86 プラットフォーム版)
- Microsoft Windows Vista Business Edition (x86 プラットフォーム版)

上記リストには、次の警告に注意してください。

- 各プラットフォームのサポートは、それぞれのコンポーネント製品にわたって異なります。各コンポーネント製品の製品ドキュメントに記載されているプラットフォーム要件を必ず参照してください。
- Java ES 7 製品によっては、Microsoft Windows XP および Vista プラットフォームを開発用にサポートしても、本稼働用にはサポートしない場合があります。
- Solaris Cluster および Solaris Cluster Geographic Edition が Solaris しかサポートしていないことにも注意してください。
- Sun Java System Directory Server Enterprise Edition (DSEE) 6.3.1 は、Red Hat Enterprise Linux 5 をサポートしません。
- Web Space Server 10.0 U6 は、Solaris 9 をサポートしません。

Solaris の要件および問題

Java ES 7 は、次の注意点をもって Solaris 10 (SPARC、x86、および x64 プラットフォーム版) 上および Solaris 9 (SPARC および x86 プラットフォーム版) 上でテストされ、サポートされています。

- Sun GlassFish Web Space Server 10.0 Update 6 は、Solaris 9 をサポートしません。
- Java ES 7 は Solaris 10 Trusted Extensions 上でテストされ、サポートされています。
- Java ES 7 は、Solaris 9 および Solaris 10 のすべてのバージョンでサポートされていますが、製品によっては、特定の最小レベルの更新によって完全な機能を実装することが推奨される場合もあります。詳細については、該当する製品のリリースノートを参照してください。
- Java ES 7 は、次の Solaris ソフトウェアグループを使用してインストールされた Solaris システム上でテストされサポートされています。

- SUNWCXall – Solaris ソフトウェアグループ全体と OEM サポート
- SUNWCall – Solaris ソフトウェアグループ全体

製品によっては、SUNWCprog (開発者 Solaris ソフトウェアグループ) や SUNWCuser (エンドユーザー Solaris ソフトウェアグループ) など、追加のグループをサポートする場合があります。詳細については、該当する製品のリリースノートを参照してください。

- Java ES 7 製品によっては、最小の Solaris 10 システム上で稼動するものもあります。この最小システムは、SUNWCreq (中核的システム Solaris ソフトウェアグループ) を使用してインストールされる場合と、SUNWCreq を使用してインストールされたあと別途のパッケージが追加される場合があります。最小インストールに必要なとされる一連のパッケージは、製品ごとに異なります。したがって、該当する製品のリリースノートを参照して、Solaris 10 上での製品の最小インストール要件を確認してください。

Linux の要件および問題

Java ES 7 は、Red Hat Enterprise Linux 5 AS および ES (x86 および x64 プラットフォーム版) および Red Hat Enterprise Linux 4 AS および ES (x86 および x64 プラットフォーム版) でテストされ、サポートされています。ただし、Sun Java System Directory Server Enterprise Edition (DSEE) 6.3.1 は、Red Hat Enterprise Linux 5 をサポートしません。

詳細なプラットフォームのサポートについては、該当する製品のリリースノートを参照してください。

Windows の要件および問題

Java ES 7 は、次の Microsoft Windows プラットフォームでテストされ、サポートされています。

- Windows 2003 Server Standard Edition と Enterprise Editions 32 および 64 ビットバージョン SP2 (x86 および x64 プラットフォーム版)
- Windows 2003 Server Enterprise Edition と Enterprise Editions 32 および 64 ビットバージョン SP2 (x86 および x64 プラットフォーム版)
- Windows 2003 Data Center Server 32 ビットバージョン SP2 (x86 および x64 プラットフォーム版)
- Windows XP Professional Edition SP2 (x86 プラットフォーム版)
- Windows Vista Business Edition (x86 プラットフォーム版)

上記リストには、次の警告に注意してください。

- Sun Java System Directory Server Enterprise Edition (DSEE) 6.3.1 および Sun Java System Web Proxy Server (WPS) 4.0.11 は、Windows XP をサポートしません。
- DSEE 6.3.1, WPS 4.0.11, および Sun Java System Web Server (WS) 7.0 Update 6 は、Windows Vista をサポートしません。

- Java ES 7 製品は、機能縮退を招かない最新版の Service Pack もサポートしていません。
- Java ES 7 製品によっては、Windows XP および Vista プラットフォームを開発用にサポートしても、本稼働用にはサポートしない場合があります。

詳細なプラットフォームのサポートについては、該当する製品のリリースノートを参照してください。

システムの仮想化のサポート

システムの仮想化は、複数のオペレーティングシステム (OS) インスタンスを共有ハードウェア上で個別に実行できるようにするテクノロジーです。機能的にいうと、仮想化された環境でホストされる OS に配備されたソフトウェアは、通常はベースとなるプラットフォームが仮想化されていることを認識しません。Sun では、精選されたシステムの仮想化と OS の組み合わせについて、その製品の多くをテストしています。これは、適切な規模と構成の仮想化環境でも、仮想化されていないシステム上の場合と同様に、製品が機能することを効果的に確認するためのテストです。仮想化された環境における製品のサポートの一般情報については、『System Virtualization Support in Sun Java System Products』を参照してください。この一般情報に対する製品固有の例外や拡張については、[System Virtualization Support in Sun Java System Products](#) を参照してください。

Web ブラウザのサポート

Java ES 7 製品に装備されている Web ベースのエンドユーザーインターフェイスおよび管理インターフェイスでサポートされている Web ブラウザとしては、少なくとも次のものが挙げられます。

- Mozilla Firefox 1.5, 2.x および 3.x (Solaris、Red Hat Linux、Microsoft Windows、および Mac OS X 版)
- Microsoft Internet Explorer 6、7、および 8 (Microsoft Windows 版)
- Apple Safari 2.0 および 3.0 (Mac OS X 版)

また、Java ES 7 製品によっては、ほかの Web ブラウザ (たとえば、Opera) をサポートするものもあります。それらの製品に対してサポートされている Web ブラウザの完全なリストについては、使用している製品のリリースノートを参照してください。

Java Platform Standard Edition (Java SE) のサポート

Java ES 7 製品でサポートされている Java SE のバージョンとしては、少なくとも次のものが挙げられます。

- Java SE 5.0 Update 22 (1.5.0_22)
- Java SE 6.0 Update 17 (1.6.0_17)

次の警告に注意してください。

- <http://sunsolve.sun.com/search/document.do?assetkey=1-66-270476-1>に定義されているセキュリティー問題が解決されるため、上記が、推奨される最小バージョンとなります。
- Sun GlassFish Web Space Server (WSS) 10.0 Update 6 は、Mac OS 版のJDK 5のみをサポートし、Solaris 版、Linux 版、またはWindows 版のものはサポートしません。
- Java ES7 製品は、機能縮退を招かない最新版の更新もサポートしています。
- 製品によっては、ほかのバージョンのJava SE (たとえば、J2SE 1.4.2) をサポートするものや、特定のバージョンのJava SE に関して互換性の問題のあるものがあります。詳細については、該当する製品のリリースノートを参照してください。

Java ES7の新機能

全体的に、Java ES6 と比較して、Java ES7 Base コンポーネントへの更新は、製品バージョンの更新、バグの修正、およびサブスクリプション提供物のマイナーチェンジから主に構成されています。新しく追加された製品はありません。

Java ES7は、以前のJava ES リリースと同様に、次の特長を備えています。

- 所有コストを削減し、ライセンストラッキングと管理を簡略化するサブスクリプションベースの料金体系
- 中小企業から大企業まですべての企業のニーズに対応できる、幅広い種類のサービス
- さまざまなインフラストラクチャーニーズに対応可能なソフトウェア製品群
- 特殊なビジネスニーズにも対応可能な機能を備えたスイートセット
- 複数のオペレーティングシステムやさまざまなシステム仮想化テクノロジーに対応
- [16 ページの「新製品」](#)
- [16 ページの「製品バージョンの更新」](#)
- [17 ページの「新しいインストール方法」](#)
- [17 ページの「アクセシビリティ機能」](#)

新製品

Java ES6 から Java ES7 への更新に、追加された新製品はありません。

製品バージョンの更新

Java ES7 には、次の製品の新しいバージョンが含まれています。

- Sun GlassFish Enterprise Server (2.1 ⇒ 2.1.1)
- Sun OpenSSO Enterprise (8.0 ⇒ 8.0U1P2)
- Sun Java System Web Server (7.0U4 ⇒ 7.0U6)
- Sun Java System Web Proxy Server (4.0.8 ⇒ 4.0.11)
- Sun GlassFish Web Space Server (10.0 ⇒ 10.0U6)
- NetBeans (6.5 ⇒ 6.7.1)

すべてのコンポーネント製品の最新バージョンについては、[表 1-1](#) を参照してください。

新しいインストール方法

Java ES コンポーネントの新しいインストールモデルが Java ES 6 に採用されました。中にはバージョン 6 を素通りして Java ES のバージョン 5 以降から直接アップグレードするユーザーもいるため、この『リリースノート』で触れておく必要があります。

バージョン 6 以前の Java ES リリースでは、Java ES の中核的な製品に共通のインストーラが使用されていました。この共通インストーラは、シンプルな単一システムをインストールする場合などに適していましたが、欠点もいくつかありました。

- 実行するにはスーパーユーザーとしてのアクセスが必要となり、インストールしたソフトウェアにはスーパーユーザー所有権が付与された。
- 1つのシステムにつき1つの製品インスタンスしか許可されなかった。
- ネイティブパッケージのソフトウェアディストリビューションしかサポートされていなかった。

Java ES の堅牢性の高いエンタープライズ対応の配備では、このような欠点が、インストールタスクを必要以上に複雑にしてしまうことがよくありました。Java ES 6 では、この共通インストーラが廃止され、代わりに Java ES でベース配布される各製品のインストーラが使用されています。各製品のインストーラは、その製品の機能に合わせて調整されているため、インストールエクスペリエンス全体が以前のリリースよりもスムーズになりました。

アクセシビリティ機能

大部分の Java ES 7 コンポーネントが、広範囲にわたる米国および国際的なアクセシビリティ規格と要件に対応するように設計されました。これらの要件は、さまざまな視覚的または身体的に不自由なお客様にとって、すべての Java ES 機能の使い勝手と完全なユーザー補助機能を高めるためのものです。

次のようなアクセシビリティ機能が、Java ES 7 ソフトウェアに組み込まれ試験されました。

- グラフィカルインタフェース要素が、Tab、矢印、Enter キーなどのキーボードで完全に操作できるようになりました。
- フォームのフィールドごとにラベルを貼ったり、各要素に該当タイトルや非表示テキスト要素を用意するなどの各手法で、アプリケーションページのすべての埋め込みフォームにおける補助技術の使い勝手が向上しました。
- アイコン、画像、ロゴなどのすべての非テキスト要素に、代替テキスト文字列が用意されました。

- Javascript コードとメニューなどのすべての動的要素、およびマウスを上にしたときに表示される文字列が記載されたポップアップメニューに、埋め込みテキスト文字列の識別子が備わり、補助技術で読み取れるようになりました。
- PDF や HTML などのバージョンの製品ドキュメントが、ユーザー補助機能の規格に準拠して記述されました。
- ほぼすべての GlassFish Portfolio コンポーネント製品が、次のように複数の操作環境で試験され、各種補助技術で動作するようになりました。
 - Mac OS X: Universal Access
 - Solaris および OpenSolaris: Orca
 - Linux: Orca
 - Windows: JAWS、System Access

Java ES 7 の入手方法とインストール方法

Java ES 7 GlassFish Portfolio 2009.12 ソフトウェアの入手方法とインストール方法については、『[Sun Java Enterprise System 7 Installation and Upgrade Guide](#)』を参照してください。

Java ES 7 の製品の相互運用性

この章では、Java ES 7 Base の製品の相互運用性について説明します。「相互運用性」という用語は、2つの製品を競合せずに運用できることを指します。相互運用性の例としては、次のものが挙げられます。

- 共存 - 2つの製品を同じシステムにインストールして実行でき、その場合に一方の製品がもう一方の製品の運用に干渉しません。
- データの共有 - 2つの製品を同じデータストア上で運用できます。その際に各製品がほかの製品による変更を無効にしたり、ほかの製品の運用に干渉したりしません。
- 依存性 - 別の製品を必要とする製品が、それぞれほかの製品の運用に干渉せずに、必要な製品を使用できます。たとえば、特定の Web アプリケーションを特定の Web コンテナに配備でき、Web アプリケーションと Web コンテナの両方が正常に動作します。

この章では、2つの製品の共存がなんらかの制限や制約を受けるか、共存に特殊な設定が必要になる場合を除き、共存について特に説明しません。

この章では、Java ES 7 Base 製品の相互運用性について、次の2種類の情報を提供します。

- 19 ページの「相互運用性に関する注釈」では、Java ES 7 の製品バージョン間相互の連携動作について説明します。
- 22 ページの「製品バージョンの下位互換」では、各製品とその製品自体の以前のバージョンとの連携動作、および依存する製品の以前のバージョンとの連携動作を説明します。

相互運用性に関する注釈

相互運用性の対応表の表 2-2 は、&ShortName ES; 製品の相互運用性について要約しています。この対応表を使用する前に、表 2-1 を参照しておく、製品の略語が理解しやすくなります。

この対応表を使用するには、まず関心のある製品の行を特定してから、その製品と Java ES 7 のほかの製品との交差部分を見てください。ここにどう書かれているかによって相互運用性を確認できます。「Yes」なら該当する製品との相互運用性があり、「No」なら相互運用性はありません。空白なら、該当する製品との相互作用なしです。「Yes」または「No」に続く番号は、相互運用性に関して該当する注釈 (21 ページの「テクノロジーに関する注釈」) があることを示しています。

製品の略語

Java ES 7 製品を多数掲載できるように、表 2-2 では、表 2-1 に記載した製品に対応する略語を使用しています。

表 2-1 Java ES コンポーネント製品の略語

略語	製品
DSEE	Sun Java System Directory Server Enterprise Edition
ESB	Sun GlassFish Enterprise Service Bus
GFES	Sun GlassFish Enterprise Server
GFWS	Sun GlassFish Web Stack
GFWSS	Sun GlassFish Web Space Server
HADB	Sun GlassFish HADB
IDM	Sun Identity Manager
JCAPS	Sun Java Composite Application Platform Suite (Java CAPS)
MQ	Sun Java System Message Queue
NB	index_ja.html
OSSOE	Sun OpenSSO Enterprise
SC	Solaris Cluster (Solaris Cluster Agents および Solaris Cluster Geographic Edition を含む)
WPS	Sun Java System Web Proxy Server
WS	Sun Java System Web Server

Java ES 7 Base の最新の製品バージョン番号については、表 1-1 を参照してください。

上記に記載された製品すべてが Java ES に含まれているわけではありません。Sun GlassFish Portfolio 2009.12 やその他のオプションの Java ES 製品スイートに含まれていることもあるのでご注意ください。ここで相互運用性を記載しているのは、Java ES Base コンポーネントとの関係があるためです。の最新の製品およびバージョンにつ

いては、『Sun GlassFish Portfolio 2009.12 リリースノート』の「GlassFish Portfolio 2009.12 に含まれている製品」を参照してください。

相互運用性の対応表

この表からわかるのは、1組の製品間の相互運用性に関する情報だけです。製品間に生じる可能性のある一般的な問題に関する情報は、この表では確認できません。相互運用性と機能の可用性について概要を完全に把握するには、この表とともに目的の製品のリリースノートを使用してください。

表 2-2 Java ES7 製品バージョンの相互運用性

	DSEE 6.3.1	GFES 2.1.1	GFWSS 10.0U6	MQ 4.3	OSSOE 8.0U1P2	SC 3.2.1/09	WPS 4.0.11	WS 7.0U6
DSEE 6.3.1	—	Yes (1)	Yes	Yes	Yes	Yes		No (1)
GFES 2.1.1	Yes (1)	—	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes (2)	Yes (2)
GFWSS 10.0U6	Yes	Yes	—		Yes		Yes	No
MQ 4.3	Yes	Yes		—	Yes	Yes		Yes
OSSOE 8.0U1P2	Yes	Yes	Yes	Yes	—		Yes	Yes
SC 3.2.1/09	Yes	Yes		Yes		—	Yes	Yes
WPS 4.0.11		Yes (2)	Yes		Yes	Yes	—	Yes (2)
WS 7.0U6	No (1)	Yes (2)	No	Yes	Yes	Yes	Yes (2)	—
GFWS 1.5	Yes (1)	Yes (2)	Yes	Yes	Yes		Yes (2)	Yes (2)
IDM 8.1	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes		Yes	No (3)
JCAPS 6.2	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes		Yes	No (3)

上の表に記載されている挿入番号の注釈については、下記のテクノロジーに関する注釈の項を参照してください。

テクノロジーに関する注釈

1. DSEE 6.3.1 と Web コンテナ。

Directory Server Enterprise Edition の Directory Server Control Center コンポーネントは、Web コンテナに配備する必要があります。GlassFish Enterprise Server および Apache Tomcat (GlassFish Web Stack の一部) 上での配備はサポートされていますが、Web Server 上での配備はサポートされません。Directory Server Enterprise Edition のほかのコンポーネントは、Web コンテナと相互作用しないので、Web コンテナとの間の相互運用性は問題となりません。

2. Web サーバー、コンテナ、およびプロキシの共存。

Web サーバー、コンテナまたはプロキシのどれか2つを同じシステムにインストールする場合、2つの製品が業界標準ポート上で同じリスナーサービス(たとえば、ポート 80 にバインドされた HTTP リスナーサービス)を提供しようとしてもポートの競合が発生しないことを確認する必要があります。共存によってこのようなポートの競合が発生すると考えられる製品は、次のとおりです。

- GlassFish Enterprise Server
- Web Proxy Server
- Web サーバー
- GlassFish Web Stack (Apache Server や Apache Tomcat など、一部のコンポーネント)

3. IDM 8.1/JCAPS 6.2 および WS 7.0U6。

IdentityManager と Java CAPS はいずれも、Web サーバーを Web コンテナとしてはサポートしません。ただし、サービスおよび管理インタフェースがサポート対象の Web コンテナに配備されている場合には、両製品のサービスおよび管理インタフェースを Web サーバーの逆プロキシプラグイン機能で使用できます。

製品バージョンの下位互換

以降の節では、Java ES 7 の各製品の下位互換について説明するとともに、該当の製品自体の従来バージョンとの互換性、および動作するうえで依存する製品の従来バージョンとの互換性を取り上げます。

- [22 ページの「Solaris Cluster 3.2 1/09 と Solaris Cluster Geographic Edition 3.2 1/09」](#)
- [23 ページの「Sun GlassFish Enterprise Server 2.1.1」](#)
- [23 ページの「Sun GlassFish Web Space Server 10.0 Update 6」](#)
- [24 ページの「Sun Java System Directory Server Enterprise Edition 6.3.1」](#)
- [24 ページの「Sun Java System Message Queue 4.3」](#)
- [25 ページの「Sun Java System Web Proxy Server 4.0.11」](#)
- [26 ページの「Sun Java System Web Server 7.0 Update 6」](#)
- [26 ページの「Sun OpenSSO Enterprise 8.0 Update 1 Patch 2」](#)

Solaris Cluster 3.2 1/09 と Solaris Cluster Geographic Edition 3.2 1/09

- Solaris Cluster 3.2 1/09 は、従来バージョンの Solaris Cluster との互換性がありません。クラスタ内のノードはすべて、同じバージョンの Solaris Cluster を実行している必要があります。
- Solaris Cluster Geographic Edition 3.2 1/09 は、従来バージョンの Solaris Cluster Geographic Edition との互換性がありません。Solaris クラスタ内のノードはすべて、同じバージョンの Solaris Cluster Geographic Edition を実行している必要があります。

Solaris Cluster が依存する製品

Solaris Cluster は、ほかの Java ES 製品には依存しません。

Solaris Cluster Geographic が依存する製品

- Solaris Cluster Geographic Edition は、Solaris Cluster に依存します。
- Solaris Cluster Geographic Edition 3.2 1/09 は、次のバージョンの Solaris Cluster でサポートされています。
 - Solaris Cluster 3.2 2/08
 - Solaris Cluster 3.2 1/09

Sun GlassFish Enterprise Server 2.1.1

- Sun GlassFish Enterprise Server 2.1.1 は、Sun Java System Application Server バージョン 9.1、8.2、8.1、8.0 および 7.x とのバイナリ互換があります。
- Application Server 9.1 上で動作する Java アプリケーションは、GlassFish Enterprise Server 2.1.1 上で動作します。同様に、Application Server バージョン 8.2、8.1、8.0 および 7.x 上で動作する Java アプリケーションも互換性のない場合を除き、GlassFish Enterprise Server 2.1.1 上で動作可能です (『Sun GlassFish Enterprise Server v2.1.1 Upgrade Guide』の第 1 章「Enterprise Server Compatibility Issues」の説明を参照)。

表 2-3 に、GlassFish Enterprise Server 2.1.1 が依存する Java ES 製品の互換性情報を示します。

表 2-3 GlassFish Enterprise Server が依存する製品

製品	依存性の種類	サポートされるバージョン
Message Queue	必須の依存性: 信頼性の高い非同期メッセージングを実現します。	バージョン 4.3 (GlassFish Enterprise Server 2.1.1 に付属するバージョン 4.4)
Web サーバー	オプションの依存性: インスタンス間の負荷分散を実行します。	バージョン 6.1/7.0、および 6.1/7.0 との下位互換を持つ 6.1/7.0 以降のマイナーバージョン

Sun GlassFish Web Space Server 10.0 Update 6

バージョン 10.0 は、Sun GlassFish Web Space Server の最初のリリースから 6 回目の更新です。すべての Web Space Server Update リリースに、下位互換性があります。

表 2-4 に、GlassFish Web Space Server 10.0 Update 6 が依存する Java ES 製品の互換性情報を示します。

表 2-4 GlassFish Web Space Server が依存する製品

製品	依存性の種類	サポートされるバージョン
GlassFish Enterprise Server	必須の依存性: J2EE Web コンテナの実行時サービスを提供しません。	バージョン 2.1
OpenSSO Enterprise	オプションの依存性: 認証/承認サービスを提供します。	バージョン 8.0

Sun Java System Directory Server Enterprise Edition 6.3.1

Directory Server Enterprise Edition 6.3.1 は一般的に、Directory Server Enterprise Edition バージョン (バージョン 6.0 まで) との互換性を備えていますが、その場合でも若干の互換性の制約が伴います。Directory Server、Directory Proxy Server、Identity Synchronization for Windows、Directory Server Resource Kit、および Directory Editor の互換性の詳細については、『[『Sun Java System Directory Server Enterprise Edition 6.3.1 Release Notes』](#)の第 1 章「Compatibility Issues」」を参照してください。

プラグイン API の互換性については、『[『Sun Java System Directory Server Enterprise Edition 6.3 Developer's Guide』](#)の第 2 章「Changes to the Plug-In API Since Directory Server 5.2」および『[『Sun Java System Directory Server Enterprise Edition 6.3 Developer's Guide』](#)の第 3 章「Changes to the Plug-In API From Directory Server 4 to Directory Server 5.2」」を参照してください。

表 2-5 Directory Server Enterprise Edition が依存する製品

製品	依存性の種類	サポートされるバージョン
GlassFish Enterprise Server	オプションの依存性: Directory Service Control Center (DSCC) に適用されます。DSEE インスタンスを管理するには、DSEE を J2EE の Web コンテナに配備する必要があります。 DSCC は複数の J2EE Web コンテナをサポートしているの で、GlassFish Enterprise Server への依存性はオプションです。	バージョン 2.1 以降、Sun Java System Application Server 8.2 以降

Sun Java System Message Queue 4.3

Message Queue 4.3 は一般的に、Message Queue バージョン (バージョン 3.6 まで) との互換性を備えていますが、若干の互換性の制約が伴います。ブローカ、クライアント、管理対象オブジェクト、および管理ツールの互換性の詳細については、『[『Sun Java System Message Queue 4.3 Installation Guide』](#)の「Compatibility Issues」」を参照してください。

Message Queue 4.3 が提供する公開インタフェースの安定性については、『『Sun Java System Message Queue 4.3 Administration Guide』の付録 B「Stability of Message Queue Interfaces」』を参照してください。

Message Queue の場合、ほかの Java ES 製品に対する依存性は必須ではありませんが、必要に応じてほかの一部の Java ES 製品を使用することにより拡張機能の利用を可能にしています。このような Message Queue の依存性に関する追加情報については、各コンポーネント製品のドキュメントを参照してください。

表 2-6 Message Queue が依存する製品

製品	拡張機能	サポートされるバージョン
DirectoryServer	管理対象オブジェクトおよびユーザーデータを、ローカルではなく LDAP ディレクトリに格納	バージョン 6.0、および 6.0 との下位互換を持つ 6.0 以降のマイナーバージョン
GlassFish Enterprise Server	クライアントとブローカ間の HTTP メッセージングのサポート	バージョン 2.1、および 2.1 との下位互換を持つ 2.1 以降のバージョン。
Sun Java System Application Server	クライアントとブローカ間の HTTP メッセージングのサポート	バージョン 9.1、および 9.1 との下位互換を持つ 9.1 以降のバージョン。
Solaris Cluster	高可用性サポートの提供	バージョン 3.2、および 3.2 との下位互換を持つ 3.2 以降のマイナーバージョン
Web サーバー	クライアントとブローカ間の HTTP メッセージングのサポート	バージョン 7.0 Update 3、および 7.0 Update 3 との下位互換を持つ 7.0 Update 3 以降のアップデート

注 - GlassFish Enterprise Server 2.1.1 には、Message Queue 4.4 が付属しています。Sun OpenSSO Enterprise 8.0 Update 1 Patch 2 には、Message Queue 4.3 が付属しています (セッションフェイルオーバー機能付き)。

Sun Java System Web Proxy Server 4.0.11

Web Proxy Server 4.0.11 は、Web Proxy Server バージョン (4.0 まで) との下位互換があります。

Web Proxy Server の場合、ほかの Java ES 製品に対する依存性は必須ではありませんが、必要に応じて Directory Server (Directory Server Enterprise Edition) を使用すること

により LDAP ベースの認証を可能にしています。Directory Server を使用している場合、Web Proxy Server 4.0.11 で Directory Server バージョン 5.2 および 6.x がサポートされます。

Sun Java System Web Server 7.0 Update 6

Web Server 7.0 Update 6 は、Web Server バージョン (7.0 まで) との下位互換がありません。

Web Server の場合、ほかの Java ES 製品に対する依存性は必須ではありませんが、必要に応じて Directory Server (Directory Server Enterprise Edition) を使用することにより LDAP ベースの認証を可能にしています。Directory Server を使用している場合、Web Server 7.0 Update 4 で Directory Server バージョン 6.x がサポートされます。

Sun OpenSSO Enterprise 8.0 Update 1 Patch 2

OpenSSO Enterprise 8.0 U1P2 は、その先行製品である Sun Java System Access Manager のバージョンとの互換性が確保されています。具体的な情報は次のとおりです。

- OpenSSO Enterprise 8.0U1P2 は、すべての Access Manager 7.1 および Access Manager 72005Q4 の既存機能 (たとえば、フル SDK やクライアント SDK API) に対する下位互換をサポートしています。次のリリースに対しては、下位互換がサポートされていません。
 - Access Manager 6 2005Q1 (6.3) およびそれ以前のリリース。
 - Liberty ID-FF スキーマのメタデータ: Directory Server 内の Access Manager または Federation Manager のスキーマをアップグレードしないかぎり、Liberty ID-FF プロファイルは機能しません。
- OpenSSO Enterprise 8.0U1P2 は、OpenSSO Enterprise および Access Manager 7.1 の各インスタンスが同じ Directory Server スキーマにアクセスする場合にかぎり、Access Manager 7.1 と共存できます。この共存が発生するのは通常、Access Manager 7.1 の複数インスタンスが同じ Directory Server スキーマにアクセスしていて、順次に更新される場合です。次のリリースに対しては、共存がサポートされていません。
 - Access Manager 7 2005Q4
 - Access Manager 6 2005Q1 (6.3) およびそれ以前のリリース
 - Federation Manager 7.0

下位互換の詳細については、『[『Sun OpenSSO Enterprise 8.0 Upgrade Guide』の「Backward Compatibility with OpenSSO Enterprise 8.0」](#)』を参照してください。

共存の詳細については、『[『Sun OpenSSO Enterprise 8.0 Upgrade Guide』の「Coexistence with OpenSSO Enterprise 8.0」](#)』を参照してください。

OpenSSO Enterprise の場合、ほかの Java ES 製品に対する依存性は必須ではありませんが、必要に応じて複数の Java ES 製品を使用して Web コンテナに対する必須の依存性

条件を満たし、ほかの Java ES 製品を使用して拡張機能の利用を可能にしています。OpenSSO Enterprise 8.0 に関するオプションの依存性の情報を、表 2-7 に示します。

表 2-7 OpenSSO Enterprise が依存する製品

製品	依存性の種類	サポートされるバージョン
Directory Server Enterprise Edition	OpenSSO Enterprise は必要に応じて LDAP Server を使用して、構成データおよびユーザーデータの保管を可能にしています。	バージョン 5.2、6.0、6.3、および 6.3.1。DSEE 6.2 は、 Sun Alert により、廃止されましたのでご注意ください。
GlassFish Enterprise Server	OpenSSO Enterprise には Web コンテナが必要です。	Version 2.1 のほか、Sun Java System Application Server バージョン 9.1 Update 1 および Update 2
Message Queue	セッションフェイルオーバー機能が有効な場合、OpenSSO Enterprise には Message Queue が必要です。	バージョン 4.1、および 4.1 との下位互換を持つ 4.1 以降のマイナーバージョン
Web サーバー	OpenSSO Enterprise には Web コンテナが必要です。	バージョン 7.0 Update 3 以降

既知の問題点と制限事項

次の節では、Java ES 7 に関して次の種類の問題を説明します。

- Java ES 7 製品をインストールするときの特殊な状況に関連した問題
- 以前のバージョンの Java ES から Java ES 7 製品にアップグレードするときの特殊な状況に関連した問題
- Java ES 7 の複数製品の相互運用性に関連した問題
- Java ES 7 製品に関する優先度の高い問題

すばやく参照できるように、この章で説明する問題のリストを示します。

- 30 ページの「(4756/4809) Portal Server 7.1u2 の同一ノード上の共存問題」
- 31 ページの「(5509) OpenSSO 8.0UIP1: LifecycleException: java.lang.StackOverflowError で、再配備できない」
- 32 ページの「(5571) OpenSSO 8.0 Upgrade: ssoupgrade のあと、Web Server にエラーがスローされる」
- 32 ページの「(5634) GF 2.1 クラスタに Opensso を配備すると、ssoadm get-svrcfg-xml が動作しない」
- 32 ページの「(5696) Java ES 7: パッチ 141655-02 によるパッチ OpenSSO 8.0 が失敗する」
- 33 ページの「(20404) Directory Server と Identity Manager: Identity Server でユーザーアカウント ID を変更した場合、LDAP グループメンバーシップが維持されない」
- 33 ページの「(6358422/2183559) Appserver 7.1/8.1 EE: Web サーバー LB のプロキシプラグインは、キープアライブ接続を正しくサポートすべきである」
- 33 ページの「(6762401) Web Space Server Portal が Policy Agent (2.2、3.0) を使用したリバースプロキシ機能で正しく描画されない」
- 34 ページの「(6808492) GF 2.1 CLI の配備を取り消そうとすると失敗し、それ以降のすべての CLI コマンドが失敗する」
- 34 ページの「(6818829) JES6: GF2.1: GF 管理ページからログアウトできない」

- 35 ページの「(6819380) GlassFish Enterprise Server と Identity Manager: GlassFish Enterprise Server へのアップグレード中に、Identity Manager の `idm.war` ファイルを再配備できない」
- 35 ページの「(6834364) SUN LoadBalancer `lbplugin` がインストールされている場合、シャットダウン時に Web Server 7 がコアダンプを生成してしまう」
- 36 ページの「(6851521) GF2.1.1: GF アップグレードスクリプトが、PS または IM、あるいはその両方を配備できない」
- 36 ページの「(6881146) GlassFish インストーラ (LB プラグインインストール) が、有効な Web Server インスタンスディレクトリを認識しない」
- 37 ページの「(6882150) Web Space Server 10.0u6: 10.0 から更新したあと、`com.liferay.util.EncryptorException` がスローされる」
- 37 ページの「(6882644) Java ES 7: GF と WSS が別々のファイルベースの配布からインストールされていると、WSS `war` ファイルを配備できない」
- 38 ページの「(6883003) 2 台構成の GlassFish Cluster に配備した場合、Web アプリケーションが `.wsdl` ファイルを見つけられない」
- 38 ページの「(6887791) JCAPS6u2: NetBeans に組み込まれた JSR-168 Portlet が、別のホストに転送できない (WSDL の URL 問題)」
- 39 ページの「(6889609/6889627) Web Server インスタンスが Web Server のインストール先ディレクトリにない場合、Web Server 7.0 NetBeans プラグインが、サーバーを追加しない」
- 39 ページの「(6889664) Web Server 7.0 NetBeans プラグインが、JSF Web アプリケーションをサポートしない」
- 40 ページの「(6891038) LoadBalancer プラグインインストーラが、インストール中に仮想ホストの `obj.conf` ファイルを更新しない」
- 41 ページの「(6891737) Web Space サブプレットのコンテキスト「/」によって、同じ AS/GF 上へのほかのアプリケーションの配備がすべて防止される」
- 41 ページの「(6893680) OpenSSO で構成された Web Space: Web Space のパスワード変更が反映されない」
- 42 ページの「(6903954) Java ES 7 GF 2.1.1 に配備したスタンドアロンの Web Space Server 10u6 にログインすると、空白ページが表示される」

これらの多くの問題に関する詳細および更新は、<http://sunsolve.sun.com>、<http://bugs.sun.com>、または <http://java.net> で検索できます。

(4756/4809) Portal Server 7.1u2 の同一ノード上の共存問題

■ 説明

Access Manager 7.1.1 から OpenSSO 8.0 へ移行したあと、Portal Server 7.1u2 は Portal Server と Access Manager を別のノードに配備すれば正しく機能しますが、同じノード上に配備すると機能しなくなります。Portal Server を正しく初期化できず、次のエラーがサーバーログに表示されます。

```
[#|2009-03-23T19:06:37.004+0100|SEVERE|sun-appserver2.1|javax.enterprise.system.container.web|_ThreadID=10;_ThreadName=main;_RequestID=00e6500a-e66c-42f4-9f06-6afdace1a2d8;|WebModule[/surveys]PWC1275: Exception sending context initialized e
```

```
vent to listener instance of class com.sun.faces.config.ConfigureListener
java.lang.NoClassDefFoundError: com/iplanet/sso/SSOException
```

この障害が発生する原因は、OpenSSO Enterprise と Access Manager の AM SDK コンポーネントが同じ Web コンテナ (Application Server/GlassFish) 内に共存できないこと、さらに Portal Server が AM SDK コンポーネントを必要としていることにあります。

このバグの詳細は、次の URL を参照してください。

- [4756](#)
- [4809](#)

- 解決法

OpenSSO は、パッケージベースの AM SDK をサポートしません。AM SDK ベースのインストールには、直接アップグレードできるパスはありません。推奨される回避方法は、次のとおりです。

1. Application Server 8.2 で実行されている Portal Server/AM SDK をそのままにします。
2. 新しい GlassFish Enterprise Server v2.1 をインストールし、Access Manager 7.1 と同じ Directory Server Enterprise Edition を指し示すこの GlassFish インスタンスに /amserver で OpenSSO を配備します。
3. Portal Server/AM SDK を、別のポート上にある OpenSSO に向けて構成し直します。

(5509) OpenSSO 8.0U1P1: LifecycleException: java.lang.StackOverflowError で、再配備できない

- 説明

この問題は、Access Manager 7.1 から 8.0U1P1 へ行うべき一連のアップグレード手順のあとで見受けられます。これについては、関連ドキュメント『[Sun OpenSSO Enterprise 8.0 Upgrade Guide](#)』の「[Upgrading to OpenSSO Enterprise 8.0](#)」に説明されています。

1. AM7.1 の配備を取り消します。
2. `ssopre80upgrade` スクリプトを実行します。
3. OpenSSO 8.0 Enterprise を配備します。
4. 既存のデータストア (この場合は DSEE 6.3.1) に対する配備を構成します。
5. `ssoupgrade` スクリプトを実行します。
6. OpenSSO (*optional*) が動作していることを確認します。
7. `ssopatch` ツールで、8.0U1P1 にステージング領域を用意します。
8. このステージング領域から、WAR ファイルを用意します。

新しい `amserver.war` を配備しようとするとう失敗し、アプリケーションの起動中に無限ループがあるように表示される。

このバグの詳細は、[5509](#) のレポートを参照してください。

- 解決法

この問題は、最新の OpenSSO Enterprise patch で解決されています。アップグレードするには、OpenSSO Enterprise version 8.0 Update 1 Patch 4 以降を使用してください。

(5571) OpenSSO 8.0 Upgrade: ssoupgrade のあと、Web Server にエラーがスローされる

- 説明

Solaris 9u7 SPARC 上で Java ES 4 パッケージベース (DS5.2、WS6.1、AM7.0、PS6.3.1) を Java ES 7 へアップグレードすると、ssoupgrade を実行してから再起動後にエラーがスローされます。

このバグの詳細は、[5571](#) のレポートを参照してください。

- 解決法

この問題は、最新の OpenSSO Enterprise patch で解決されています。アップグレードするには、OpenSSO Enterprise version 8.0 Update 1 Patch 4 以降を使用してください。

(5634) GF 2.1 クラスタに Opensso を配備すると、ssoadm get-svrcfg-xml が動作しない

- 説明

Web Space Server OpenSSO Add-On は、GlassFish LoadBalancer の先にある GlassFish クラスタノード上の OpenSSO の構成を取得することができません。そのため、OpenSSO Add-On は失敗します。

このバグの詳細は、[5634](#) のレポートを参照してください。

- 解決法

GlassFish Cluster には OpenSSO を配備せず、代わりに OpenSSO Session のフェイルオーバー機能を使用します。

(5696) Java ES 7: パッチ 141655-02 によるパッチ OpenSSO 8.0 が失敗する

- 説明

この問題は、『Sun OpenSSO Enterprise 8.0 Upgrade Guide』の「Upgrading to OpenSSO Enterprise 8.0」の製品ドキュメントに説明されている、Access Manager 7.1 から 8.0U1P2 へアップグレードする一連の手順を実行したあとに起こります。

このバグの詳細は、[5696](#) のレポートを参照してください。

- 解決法

次を確認します。

1. 「updateschema スクリプトの実行」にある **8.0U1 パッチインストール手順**の説明どおりに、ssoadm ツールを使用します。
2. updateschema.sh を実行する前に、`-D"com.ipplanet.am.naming.map.site.to.server=<lb-url>=<server-url>"` を、関連する ssoadm (ssoadm.bat) スクリプトに追加してください。

(20404) Directory Server と Identity Manager: Identity Server でユーザーアカウント ID を変更した場合、LDAP グループメンバーシップが維持されない

- 説明

Identity Manager LDAP リソースアダプタを介して Directory Server 6.3.1 LDAP ストアが Identity Manager 8.0 で管理可能なときに、Identity Manager でユーザーアカウント ID を変更した場合、そのユーザーの LDAP グループメンバーシップがメンテナンスされません。このことは、Identity Manager の `accountId` 属性が LDAP `cn` 属性と `uid` 属性の両方にマップされている場合でも当てはまります。

- 解決法

ありません。

(6358422/2183559) Appserver 7.1/8.1 EE: Web サーバー LB のプロキシプラグインは、キープアライブ接続を正しくサポートすべきである

- 説明

Sun Java System Application Server 7.1/8.1 の負荷分散のプロキシプラグインを Sun Web Server 7 で使用すると、極度の負荷で要求がドロップされることがあります。ログに表示されるエラーメッセージは、次のとおりです。

```
RNTM3003: No server to service
```

- 解決法

解決策はありませんが、2種類の回避策があります。

1. Web Server 7 のタイムアウト設定を無効にします。

```
web-server-install-dir/bin/wadm set-keep-alive-prop \  
--user=admin --config=server-name timeout=-1
```

2. Web Server を再起動します。

(6762401) Web Space Server Portal が Policy Agent (2.2、3.0) を使用した リバースプロキシ機能で正しく描画されない

- 説明

条件によっては、HTTP 応答が Web サーバーのリバースプロキシ機能を介して正しく転送されないため、結果として Web ブラウザ内の Web ページが正しく描画されません。この問題は、Web Space Server 上で SSO Policy Agent とリバースプロキシの両方を同時に実行すると発生します。

- 解決法

リバースプロキシを介したアクセスはサポートされていません。Secure Web Access (SWA) Add-On Secure を使用して、OpenSSO で Web Space Server にアクセスする方式をお勧めします。

(6808492) GF 2.1 CLI の配備を取り消そうとすると失敗し、それ以降のすべての CLI コマンドが失敗する

- 説明

Sun Java™ Enterprise System 7 の配備を取り消そうとすると失敗し、「Invalid user or password」というメッセージが表示され、それ以降は同じエラーメッセージが表示されて、どのコマンドを発行しても失敗してしまいます。同時に、GUI からログインできなくなり、CLI だけの認証問題にとどまらなくなります。ドメインを再起動するとこの問題は解消されますが、amserver の配備が取り消されないため、もう一度配備を取り消そうとすると、この問題が再び発生します。GUI から配備を取り消そうとした場合は、同じ認証失敗が起こりますが、少なくとも Web アプリケーションの配備が取り消されます。

- 解決法

ありません。少なくとも CLI 機能と GUI 機能だけを元に戻すには、GlassFish ドメインを再起動してください。

(6818829) JES6: GF2.1: GF 管理ページからログアウトできない

- 説明

GlassFish Enterprise Server の管理ページの「ログアウト」ボタンをクリックしたあと、空の確定警告が表示されます。「OK」をクリックすると、コンソールページが再度読み込まれますが、ログアウトされません。

この問題は、Access Manager 7.x と GlassFish 2.1/2.1.1 に影響しますが、最新の Access Manager パッチで解決されました。この問題は、Application Server 8.x を GlassFish 2.x に更新したときに、最新の Access Manager パッチを適用しなかったり、OpenSSO Enterprise Edition にアップグレードしなかったりした場合に起こります。

- 解決法

GlassFish Enterprise Server の server.policy ファイルで、次の行を変更します。

```
permission java.security.AllPermission "MonitoringAuth.*";  
  
permission java.security.AllPermission "MonitoringPolicy.*";
```

次のように変更します。

```
permission javax.management.MBeanServerPermission "*";

permission javax.management.MBeanPermission "*", "*";

permission javax.management.MBeanTrustPermission "*";

permission java.io.FilePermission "//var/opt/SUNWmfwk/logs/*", "delete,write";
```

最後の行のパスが2つのスラッシュ (/) で始まっていることに注意してください。最初のスラッシュは、SUNWmfwk-rt のインストールディレクトリを示します。デフォルトのインストールディレクトリ (Solaris の場合 /opt、Linux の場合 /opt/sun) は単一スラッシュで示されます。

(6819380) GlassFish Enterprise Server と Identity Manager: GlassFish Enterprise Server へのアップグレード中に、Identity Manager の idm.war ファイルを再配備できない

- 説明

Application Server 8.2 からアップグレードする GlassFish Enterprise Server に付属のアップグレードユーティリティーを使用した場合は、アップグレードログに idm.war ファイルが配備されないという記録が残ります。

- 解決法

アップグレードユーティリティーで修正し配備を試行したファイルでなく、元の idm.war ファイルを配備してください。Identity Manager をデフォルト設定でインストールした場合、元の war ファイルは /opt/idm.war となります。

(6834364) SUN LoadBalancer lbplugin がインストールされている場合、シャットダウン時に Web Server 7 がコアダンプを生成してしまう

- 説明

lbplugin がインストールされた状態で Web Server 7.0 をシャットダウンすると、コアファイルが生成されます。コアファイルには、次のようなものが記載されています。

```
current thread: t@1
=>[1] __lwp_kill(0x0, 0x6, 0xfd5f3700, 0xfe822a00, 0xff36f338, 0x0), at 0xfd5c5bf0
[2] raise(0x6, 0x0, 0x20f04, 0xff34ba3c, 0xff36a000, 0xff36abdc), at 0xfd564bf4
[3] umem_do_abort(0x6, 0xffbfff018, 0x6, 0x20e40, 0xff356ad8, 0x0), at 0xff349188
[4] umem_err_recoverable(0xff357b54, 0xa, 0x20d38, 0xfe8ae5d8, 0xff36d0e8, \
  0xff357b5f), at 0xff34932c
[5] process_free(0x282468, 0x1, 0x0, 0x3e3a1000, 0x1ec08, 0xfe8ae3fc), \
  at 0xff34b504
[6] INTdaemon_dorestart(0x1, 0xff272ffd, 0xff2abc04, 0x862d58, 0xfcbd40e8, \
  0xff2a2c00), at 0xff0ffb84
```

```
[7] WebServer::Run(0x1, 0x0, 0x6, 0x88108, 0x3d, 0xff272ec9), at 0xff1a5d5c
[8] main(0x9, 0xffbfff47c, 0xffbfff4a4, 0x21400, 0x0, 0xfd035000), at 0x10fd4
```

この問題は、Web Server 7.x 上で実行している Application Server 8.1、8.2、9.x のすべてで起こります。原因は、エントリの重複です。

```
Init fn="load-modules" shlib="libj2eeplugin.so" shlib_flags="(global|now)"
Init fn="init-passthrough"
##END LB Plugin Parameters
Init fn="load-modules" shlib="libj2eeplugin.so" shlib_flags="(global|now)"
```

- 解決法

Web Server の `magnus.conf` ファイルにある `libj2eeplugin.so` への最初の方の重複参照を削除してから、Web Server を再起動します。

(6851521)GF2.1.1:GFアップグレードスクリプトが、PSまたはIM、あるいはその両方を配備できない

- 説明

Sun GlassFish Enterprise Server 2.1.1 (Build 17 `sges_ee-2_1_1-fcs-bin-b17-solaris-i586-03_jun_2009.bin`) アップグレードツールは、Portal Server 6.3.1 (JES4) アプリケーションを AS 8.1_02 (JES4) から移行できません。

この問題は、Application Server 8.1 から GlassFish へ更新するときに、Portal server 6.3.1 または Instant Messaging、あるいはその両方もインストールされていると、Java ES 4 から Java ES 7 へのアップグレードプロセスに影響します。この問題は、GlassFish 2.x へのアップグレード時に、ほかの古いアプリケーションにも影響することがあります。

この問題は、GlassFish 2.x アップグレードツールの設計不備によるもので、アップグレードプロセス中に、分解したアプリケーションビットからアーカイブが再作成されるために発生します。その結果、アーカイブが再作成されると、jar 署名が無効になります。

- 解決法

ありません。GlassFish を更新する前に古いアプリケーションを更新しておくか、またはインストールをアップグレードせずに新しい GlassFish のインストールを実行したうえで、古いアプリケーションを GlassFish に手動で再配備してください。

(6881146) GlassFish インストーラ (LB プラグインインストール) が、有効な Web Server インスタンスディレクトリを認識しない

- 説明

GlassFish v2.1 ファイルベースバージョンの使用時に、GlasFish インストーラで Load Balancer Plugin をインストールしようとする、インストーラが Web Server インスタンスを受け入れず、<Web-Server のインストール先ディレクトリ> /https-<ホスト名>とは別の場所に作成されます。不正なディレクトリエラーにより、インストールが中断されます。

デフォルトでは、Java ES 5 と Java ES 5 U1 に付属している Web Server 7.0 パッケージが、Sun Java™ Enterprise System 7 内にそのインスタンスを作成します。このインストール先ディレクトリを LoadBalancer プラグインに使用すると、インストールに失敗します。

- 解決法

インストーラがインスタンスの位置を認識できるように、Web Server インスタンスのディレクトリから Web Server のインストール先ディレクトリへ、次のようにシンボリックリンクを作成します。

```
ln -s /var/opt/SUNWwbsvr7/https-<hostname>.<domain> /opt/SUNWwbsvr7/https-<hostname>.<domain>
```

(6882150) Web Space Server 10.0u6: 10.0 から更新したあと、com.liferay.util.EncryptorException がスローされる

- 説明

Web Space Server 10.0 から 10.0u6 へアップグレードしたあと、次の例外が GlassFish server.log に見られることがあります。

```
[#|2009-09-15T11:45:19.453+0000|INFO|sun-appserver2.1| \  
javax.enterprise.system.stream.out|_ThreadID=23; \  
_ThreadName=httpSSLWorkerThread-81-1;|11:45:19,448 \  
ERROR [IncludeTag:165] com.liferay.util.EncryptorException: \  
com.liferay.util.Encryptor \  
Exception: java.security.ProviderException: update() failed  
    at com.liferay.util.Encryptor.encryptUnencoded(Encryptor.java:205)  
    at com.liferay.util.Encryptor.encrypt(Encryptor.java:174)  
    at org.apache.jsp.html.common.themes.top_005fhead_jsp._jspService \  
(top_005fhead_jsp.java from :1753)  
    at org.apache.jasper.runtime.HttpJspBase.service(HttpJspBase.java:109)  
    at javax.servlet.http.HttpServlet.service(HttpServlet.java:847)
```

- 解決法

この問題は、最新の Web Space Server 製品のパッチで解決されています。Web Space Server を 10.0 Update 6 Patch 3 以降に更新してください。

(6882644) Java ES 7: GF と WSS が別々のファイルベースの配布からインストールされていると、WSS war ファイルを配備できない

- 説明

GlassFish と Web Space Server が別々のファイルベース配布からインストールされていると、Web Space Server WAR ファイル (saw-web.war、glassfishregistrationportlet.war、ruon-web.war、dlmigrationportlet.war、および wsrp-portlet.war) を配備できません。

- 解決法

管理コンソールを使用するか、ファイルをドメインの autodeploy ディレクトリにコピーして、ファイルを手動で配備します。

(6883003) 2 台構成の GlassFish Cluster に配備した場合、Web アプリケーションが .wsdl ファイルを見つけられない

- 説明

Web Application .war ファイルを 2 台の GlassFish クラスタに配備できますが、Node2 (instance-TWO) にあるアプリケーションの URL にアクセスしようとするとそこに DAS がないため、WSDL ファイルが見つからずに `java.io.FileNotFoundException` がスローされます。

問題は、DAS が Node2 に存在しないことです。

- 解決法

domain1 (DAS) にディレクトリ階層を作成してから、Web アプリケーションのファイル検索先にある WSDL ファイルにシンボリックリンクをコピーするか作成します。

(6887791) JCAPS6u2: NetBeans に組み込まれた JSR-168 Portlet が、別のホストに転送できない (WSDL の URL 問題)

- 説明

JCAPS Web Service を消費する JSR168 Portlet を構築して Web Space Server へ配備すると、WSDL ファイルが見つからないというエラーが出てポートレットを配備できない。この問題は、`CalculatorWSService.java` にある静的コードが、WAR パッケージ内の相対パスではなく、WSDL のディスク上の絶対パスを指しているために起こります。

- 解決法

この問題には 2 つの回避方法があります。

1. Web Space Server ホストに目的のディレクトリ階層を作成し、WSDL ファイルをそこにコピーします。
2. 正しい `wsdlLocation` を指定するため、たとえば次のように `wsimport` オプションを手動で調整します (CalculatorPortlet→Web Service References→CalculatorWSService→Edit Web Service Attributes)。

```
wsdlLocation=http://jcaps-node1:8080/CalculatorApp/CalculatorWSService?wsdl
```

(6889609/6889627) Web Server インスタンスが Web Server のインストール先ディレクトリにない場合、Web Server 7.0 NetBeans プラグインが、サーバーを追加しない

■ 説明

追加対象となる Web Server インスタンスが、メインの Web Server インストール先ディレクトリとは別のディレクトリにあるときに、Web Server 7.0 インストールを NetBeans 6.5.1 に追加すると、エラーが発生します。次に例を示します。

■ Web サーバーインスタンス:

```
/var/opt/SUNWwbsrv7/https-<node>  
/var/opt/SUNWwbsrv7/admin-server
```

■ Web Server インストールディレクトリ:

```
/opt/SUNWwbsrv7
```

表示されるエラーメッセージは、「Please choose a Valid Sun java System Web Server 7.0 installation. (有効な Sun java System Web Server 7.0 インストールを選択してください)」です。

■ 解決法

ありません。NetBeans 用の Web Server プラグインは、現在のところスタンドアロンのインストールのみで機能しています。インスタンスは管理ライブラリに依存するため、Web Server インストール先ディレクトリと Web Server インスタンスのディレクトリが同一であると見なされます。中でもプラグインは、admin-server、config、server.xml など、複数のディレクトリとファイルがあるかどうかをチェックします。見つからなければ、このプラグインが失敗します。

(6889664) Web Server 7.0 NetBeans プラグインが、JSF Web アプリケーションをサポートしない

■ 説明

Web Server 7.0 を NetBeans Servers タブに追加したあとに NetBeans 6.5.1 と Sun Java System Web Server 7.0 プラグインを使用してから JSF アプリケーションを Web Server に配備しようとする、javax.faces.FacesException パッケージを解決するエラーが発生します。

問題は、jsf-impl.jar と jsf-api.jar が、プラグインから読み込まれていないことです。NetBeans 用の Web Server プラグインは、これらのクラスの読み込みをサポートしていません。

■ 解決法

「NetBeans Servers」タブでターゲットサーバーに GlassFish v2 を選択し、Web Server ではなく、GlassFish にアプリケーションを構築します。アプリケーションを構築したあと、これを NetBeans から配備せずに、wadm CLI または Web Server 管理コンソールから Web Server へ手動で配備します。

(6891038) LoadBalancer プラグインインストーラが、インストール中に仮想ホストの obj.conf ファイルを更新しない

■ 説明

場合によっては、LoadBalancer プラグインが Web Server 7 と、生成された loadbalancer.xml ファイルに正しくインストールされても、LoadBalancer が正しく初期化しないことがあります。

たとえば、次のようなシナリオを考えてみます。

- LoadBalancer プラグインをインストールする前に、ユーザーが Web Server 仮想ホストに指定の構成を実行したとします (Web Server 仮想サーバーログを優先)。この場合、Web Server が新しい obj.conf ファイルを作成し、仮想ホスト名 <WS仮想ホスト名>-obj.conf を付けます。
- LoadBalancer プラグインのインストール時に、このプロセスが自動的に Web Server の各種構成ファイル (server.xml、magnus.conf、obj.conf) を更新しますが、<WS仮想ホスト名>-obj.conf は更新されません。

この場合、問題は、<WS仮想ホスト名>-obj.conf ファイルが Web Server 起動シーケンスにあるほかの構成ファイルよりも優先されてしまい、必須の lbplugin エントリが見つからず、エラーメッセージが表示されなくても、LoadBalancer が完全に初期化されないことにあります。

■ 解決法

次のエントリを <WS仮想ホスト名>-obj.conf ファイルに手動で追加します。

1. <Object name="default"> タグの下に、次を 1 行で追加します。

```
NameTrans fn="name-trans-passthrough" name="lbplugin" \
config-file="/opt/SUNWwbsvr7/https-<ws_config_name>/config/loadbalancer.xml"
```

2. ファイルの最後に、次を追加します。

```
<Object name="lbplugin">
PathCheck fn="deny-existence" path="*/WEB-INF/*"
ObjectType fn="force-type" type="magnus-internal/lbplugin"
Service type="magnus-internal/lbplugin" fn="service-passthrough"
Error reason="Bad Gateway" fn="send-error" uri="$docroot/badgateway.html"
</Object>
```

```
<Object ppath="*lbconfigupdate*">
PathCheck fn="get-client-cert" dorequest="1" require="1"
</Object>
```



```
<Object ppath="*lbgetmonitordata*">
PathCheck fn="get-client-cert" dorequest="1" require="1"
</Object>
```

これらの変更が済んだら、LoadBalancer を再起動します。

(6891737) Web Space サブレットのコンテキスト「/」によって、同じ AS/GF 上へのほかのアプリケーションの配備がすべて防止される

■ 説明

ほかのアプリケーション (OpenSSO 8、Access Manager Server 7 や一部のサンプルアプリケーションなど) がすでにインストールされている GlassFish (v2.1) ドメインに、Web Space Server を配備したあと、これらのアプリケーションにアクセスできなくなることがあります。

問題は、Web Space Server がサブレットコンテキストのルート (/) を継承するため、すべての Web 参照がポータルインフラストラクチャーを介してリダイレクトされることです。この問題は、Web Space Server のあとに GlassFish へ配備されたアプリケーションには起こりません。つまり、Web Space Server に関するアプリケーションの配備順序が重要になります。

■ 解決法

配備中は、デフォルトのコンテキストルートである「/」を、次のように別のコンテキストルートで指定すれば変更できます。

```
asadmin deploy -contextroot /foo
```

これを実行する場合は、portal-ext.properties にある portal.ctx 構成パラメータが一致するように設定しなくてはなりません。詳細は、『[Sun GlassFish Web Space Server 10.0 Administration Guide](#)』の「Portal Context」を参照してください。

(6893680) OpenSSO で構成された Web Space: Web Space のパスワード変更が反映されない

■ 説明

Web Space Server が OpenSSO でユーザーを認証するように構成されているとき、Web Space My Account ポートレットで Web Space Server のユーザーパスワードを変更すると、変更したパスワードが OpenSSO サーバーに送信されません。

My Account ポートレットは、Liferay に由来するため、Liferay によるすべての認証機構には同じ問題があります。デフォルトの認証機構以外のものが使用されている場合は、コントロールパネルでパスワードフィールドを変更しても反映されません。これは一般的に外部 SSO ソリューションを使用する際に既に判明している制限事項であり、外部 SSO ソリューションが編集可の場合は、OpenSSO によって制御されるユーザー属性 (ユーザー名やパスワードなど) を編集不可に設定しないか、または SSO サーバーの UI にリダイレクトする必要があります。

- 解決法

Web Space Server の My Account ポートレットではなく OpenSSO サーバーのインタフェースを使用して、ユーザー属性を変更します。

(6903954) Java ES 7 GF 2.1.1 に配備したスタンドアロンの Web Space Server 10u6 にログインすると、空白ページが表示される

- 説明

GlassFish 2.1.1 に配備したスタンドアロンの Web Space Server 10 U6 インスタンスにログインできません。ログインすると、空白ページが表示されます。

- 解決法

この問題は、最新の Web Space Server のパッチで解決されています。Web Space Server をバージョン 10.0 Update 6 Patch 3 以降に更新してください。